



小平市立上宿小学校

CSだより

学校経営協議会だより

令和4年度 No.5



令和4年11月1日

会長 羽根田 厚子

校長 内 藤 章

11月になりました。2学期が始まった9月当初は、熱中症が心配になるほどの陽気でしたが、もうすっかり秋になり、朝晩はかなり冷え込むようになってきました。皆様、どうぞ体調に気をつけてお過ごしください。

2学期、運動会や学校公開などで上宿小の様子を参観すると、子どもたちがとても落ち着いており嬉しく感じました。これからも保護者の皆様や先生方と地域とが連携をとりながら、子どもたちを育てていきましょう。

さて、第4回～6回の学校経営協議会で話し合ったことについてお知らせいたします。



10/1(土) 3年ぶりの運動会の様子



上宿小の「今」をとらえる。

7月の第4回学校経営協議会では、児童や保護者の皆様にご協力いただいた、「学校アンケート」の結果について報告がありました。また、このアンケート結果を上宿小でどのように捉えているかを伺いました。

R4 前期 学校アンケートの結果について（主なもの）

●主体的な学習

80%以上の児童が肯定的回答

「めあてをもって学習する」が重点。児童が個々に課題をもてるようにしていく。

●タブレット活用

1日1回以上使う児童 増

児童に「特別な物を使っている」という感覚がなくなってきた。今後も無理なく使っていくことが大切。

●読書の習慣

保護者の肯定的な回答は43%

タブレット持ち帰りで家庭での読書時間減か？学校と家庭が連携する取組を行いたい。

●CSの取組

保護者の71%が肯定的回答

80%以上を目指して、取組の周知を続けていくことが必要。

これらの内容も受けて、CSの各プロジェクトでできることはないか、第4回・第5回と話し合いを進めていきました。今後も話し合いと取組を進めていきます。

広げよう。学びの輪。PT

- ・ 不要図書回収は可能か → 子どもが読みたくなるのは新しい本なのではないか → 隔週水曜中休み「お話の森」の再開 / 児童が紹介した本の中から新規購入
- ・ 家庭との連携必要 → 親子読書の提案

育てよう。心の芽。PT

- ・ 挨拶について、さらに取組を広げたい → 保護者・地域に協力を呼び掛けるメール配信 → 児童からの働きかけも必要 → 地域向けポスター作製など、代表委員会児童への提案

みんなで協力。助け合おう。PT

- ・ 連絡網の廃止や感染症対策などで、保護者が孤立していないか → 地域のイベントなどの復活が待たれる
- ・ 避難所運営マニュアル改訂について → 今後地域防災部会にて検討していく



「たくましさ」も大事にしたい。

10月の第6回学校経営協議会は、校医の先生にもご参加いただき、「学校保健委員会」を兼ねて行いました。子どもたちの健康・体力面について、現状や課題を共有しました。

【学校より】

健康面について

- 身長・体重は、全国平均に近い。
 - 肥満傾向は、コロナ以降増加。
 - 視力、2極化が進む。
 - 虫歯、増加傾向。マスクが影響か。
- ⇒ 集会や保健指導により指導を継続していく

体力面について

- 体力テスト、全国平均より低い項目多い。
 - 休み時間の過ごし方も2極化。
 - 体の使い方を知らない子の増加。
- ⇒ 外遊びの励行、日常的に運動できる場の提供

【校医より】

歯科医の立場から

- 子どもの口内の状況を見ている家庭は、虫歯が少ない。保護者のチェックが必要。
- 学校でブラッシング指導を行えていない。
- 口呼吸も一因か。
- 給食後の歯磨きも必要。

内科医の立場から

- 体を動かす場が欲しい。肥満だけでなく心にも影響。
- ICT が子どもたちの目に影響。ヒトの目は強い光を見続けるようにできていない。
- 睡眠不足を指摘することが増えた。
- 感染症対策には、換気は確実に効果がある。

CS 委員より

- ・子どもたちが競争をしないようになったと感じる。負けても悔しくない、失敗を恥ずかしいと思っているのがもったいない。何か対策ができないか。
- ・体を使って遊ぶ機会を増やしたい。公園での遊び方も制限されている。校庭開放を生かせないか。ゲーム以外にも楽しいことがあると気付かせたい。
- ・雨の日に、安全面と体力面を考慮し「廊下をつま先で歩きましょう」という放送を入れてはどうか。

CS 子育てリレーコラム



育む HAGUKUMU

第6回：上宿小クラス委員会 委員長 新屋 奈穂香 「わが子を認めるってむずかしい」

今から5年程前、当時年中だった次女と2年生だった長女に、3人目の妊娠を伝えた時のことです。弟が欲しかった長女は、素直に喜んでくれました。ところが次女の反応は正反対のものでした。甘えんぼうだった次女は、ママやパパがとられてしまうと感じたんだと思います。そこで私は無理に押し付けず、次女の気持ちを理解することから始めました。まだ年中だった為、自分の気持ちをうまく言葉にすることは出来ませんでしたが、行動や態度でなんとなくわかることができました。

その時ふと、自分がどのくらい子どもたちを見ていたんだろうと考えました。毎日小さなことで叱ったり、私から発することは沢山あっても、子どもたちの小さなサインにどれ程気づいてあげられていたのか、「忙しい」の一言で片付けてしまっていたような気持ちになり、とても反省したのです。叱ることと同じくらい褒めることが出来ていたかという、そんなことはなく、これではいけないと思いました。そこで子どものすごいところ、好きなところを50個ずつ書き出してみることになりました。どんなに小さなことでもいいのです。たとえば「ありがとうが言える」とか、「ごはんを残さず食べられる」とか。これがなかなか難しい！赤ちゃんから少しずつ成長するとき、小さなことが出来るようになっただけで感動していたのに、それが当たり前になるうちに、さらによく出来ることを要求していたんだなと感じました。

子どもが成長していくにつれて、親の悩みも変わります。親も人間ですから叱ることが増えたり、イライラしたり、うんざりする日もあると思います。そんなとき、1つや2つ、子どものすごいところや好きなところを書き出してみてください。悪いところではなく、良いところを考えるその時間が、モヤモヤした気持ちを軽くしてくれるかもしれません。